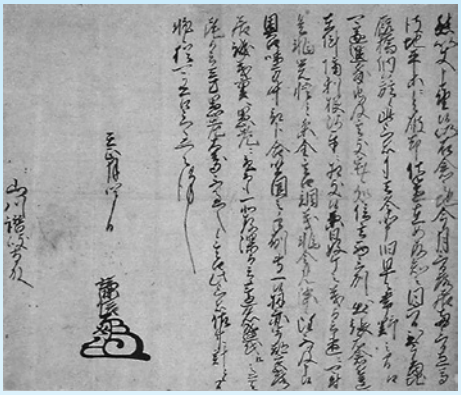
武田信玄とも争っていました。もともと北条と武田が同盟を結び上杉に対抗していましたが、永禄11 (1568) 年に信玄が駿河を制圧したのをきっかけに、北条と武田は断交し、翌年には氏康と謙信の同盟が結ばれました。

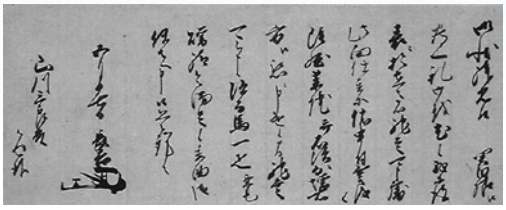
こうした中、信玄は相模に進軍し小田原城を囲み、さらに西上州に出て関東進出を企てました。これに佐竹氏・宇都宮氏らが呼応し、常陸・下野は内乱状態になりました。このとき山川氏は上杉方に属し謙信に援軍を求めたので、これに応えるべく謙信は上州に出陣したのです。



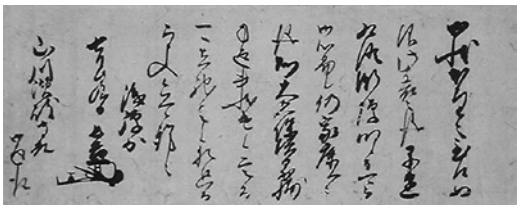
▲上杉謙信からの書状

浅野長吉(長政)書状

豊臣秀吉の重臣浅野長吉(長政)の書状は２通あります。1つは長吉から山川三郎(晴重)に宛てられた書状で、秀吉が小田原城を攻めていた最中の天正18(1590)年５月のものです。このとき秀吉は関東の領主たちに参陣を促していましたが、浅野長吉は山川に対する仲介役をつとめ、晴重もこれに応えて書状を届け、馬を贈っています。この当時浅野は小田原を離れており、山川の参陣にあたって直接仲介の労をとる事が出来ないので、施薬院全宗・石田三成・増田長盛の３人にこれを依頼してある旨をこの書状で山川に伝えています。



▲浅野長吉(長政)からの書状①



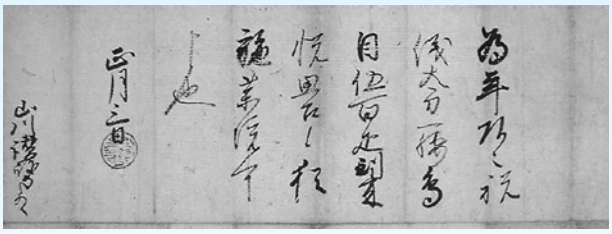
▲浅野長吉(長政)からの書状②

もう1つは、長吉から山川讃岐守(晴重)宛の書状で、天正18年７月のものです。浅野が担当していた地域のことが解決したことを述べ、徳川家康に対する交渉について、大久保治部少輔(忠隣)に連絡したことを伝えています。このとき小田原の北条氏は滅亡しており、その遺領に徳川家康が入ることが決まっていました。山川氏にとって秀吉だけでなく家康との関係確保も必要になり、ここでも浅野が仲介の労をとっています。

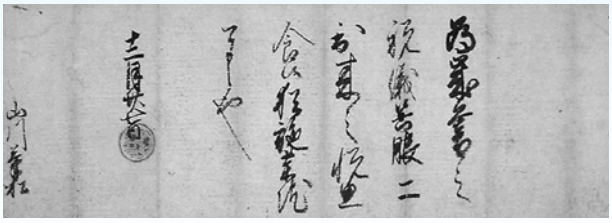
豊臣秀吉朱印状

豊臣秀吉の朱印状は2通あります。1つは秀吉から山川讃岐守(晴重)に宛てられた朱印状で、年頭の祝儀として晴重が太刀と銭を進上したことに対する礼状です。

もう1つは秀吉から山川菊松丸(朝貞)に宛てられた朱印状で、歳暮の進物に対する礼状です。山川晴重は文禄２(1593) 年に28歳で死去し、当時３歳の菊松丸が跡を継いでいました。



▲豊臣秀吉からの朱印状①



▲豊臣秀吉からの朱印状②

三和資料館では、今年度から館蔵資料展と企画展との展示替えの期間を使って、2週間ほど「スポット展示」というミニ展示を開催しています。10月7日～21日に「山川氏中世関連文書」の中から「豊臣秀吉朱印状」を展示しますので、ぜひ、ご来館ください。

三和資料館学芸員　小林靖